

「真理で心が重なる家庭を築く」

神 示

社会は 時代の力を受けて 常に流れている

社会の変化は必然の姿

人類には流れを変える力はない

この気付きを欠くために

変化にのまれ 実体に泣く人が多い

信者に申す

今 社会は 調和の姿に戻るため

時代の力を受けて 大きく流れを変えている

変化を受け止め 流れに乗るため

「真理」に生きる心が必要

「真理」は 家族の心を重ね

「心の道」を太くつなぐ力となる

流れに乗って日々歩む人は皆

家族と正しい関わりを持っている

変化にのまれず

家族の愛に支えられ 夢を持って生きている

なぜ 神は 人間に「教え」を示すのか

過分な欲心に実体を下げ

自ら悩み 苦しむ人生を守り 救うため

人間は 親の無償の愛を受けて

良き実体を受け継ぎ 育つもの

なれど 現代は 「真理」なき家庭も多く

変化にのまれ 愛が芽吹かずにいる

和心育つ家庭を築く今こそ

「真理」に生きる人であれ

光栄信者参拝時は、一年の前半を振り返り、自身の欠けたところに気付き、修正を図る時。今年、この時期に気付かなくてはならないのは、真理で心が重なる家庭を築く意識と、神は示されました。社会は、時々刻々と変化しています。それは、政治、経済など、人の力によるものではありません。時代の運命の力を受け、移り変わっているのです。

春、夏、秋、冬と巡っています。社会の変化も、巡るのが必然の流れであり、人類にそれを変える力はありません。そこに求められるのは、環境の変化に応じて生きる心です。時の流れ、社会の推移に合わせて生きるのです。

例えば、相手が強く出たなら、柔らかく受け止めることです。強く押し返したのでは、衝突してしまいます。それに気付かず、変化にのまれて的確な対応もできず、泣く目に遭う人が多いのです。もろもろの変化を恐れることはありません。さまざまな事象が起きてても、時代

の力で調和する方向に戻るからです。流れに乗って生きるには、道理にかなう生き方が必要です。家族で教えを身に付け、何事にも正しく関われるように努めるのです。すると、心が揺れることなく、周りと支え合って生きられます。

なぜ、神示が次々と表されているのでしょうか。それは、欲が過ぎて、悩み、苦しんでいる人々を救うためです。人間は、親から無償の愛を受け、良い生き方を身に付けていくものです。しかし、現代は、あるべき姿から外れた家庭も多く、親から子へ、子から孫へと、また広く周りの人々へも、愛を向けられない現実があります。

社会が大きく変わりつつある今、決して欠かせないのが、家族の心の重なりです。自分の足元を確かなものとしなくては、流れにのまれてしまいます。和のある家庭が求められる今こそ、家族そろって教えに生きられるように努力しましょう。心を支える家庭があつて、

広く社会で活躍できるからです。

「真理で心が重なる家庭を築く」

神 示

社会を支える力は 運命にある

運命は 万物に神が宿す力ゆえ

その力を互いに重ね 補い合う社会に 和が成る

なれど 人間は

精神世界に「生きる」心を忘れ 欠き

唯物世界に生きている

信者に申す

社会を支える力は^{運命}

和のある家庭に磨かれ

引き出される真実に気付くべし

家族で「教え」を学ぶほど

人間^{運命}の心は安定し 「道」欠く心は^{実体}修正される

家庭で育まれる実体が

後々の^{のちのち}「人生」の明と暗を分ける

今日^{こんにち} 世界は 邪道を^歩ゆく人が^{人々}多い

よって 運命の力が生かせず 迷う

時代は 常に調和の姿を保つため

神の手の中 時代の力を^{運命}受けて修正される

「道」欠き 外す^{今日}今の時代を 「正道」に戻すため

社会は大きく姿を変える

「教え」に「真理」を学び 悟りを^{人々}深める人が

世界を導く時代に入る

「教え」が^{人間}人の心を豊かに潤し

平和を求めて^{人々}人は集まる

この世は、運命の力で回っています。

運命とは、時代、土地、人、物など、神が万物に授けられた世に役立つ力です。

その力を生かすところに、物事が円滑に運び、調和の取れた社会となります。

しかし、互いが重なり、補い合うことをせず、和が成らない現実があります。

力を重ね合うには、互いを尊重する心が必要です。精神世界を大事にする思いを欠き、物の価値に目を奪われて唯物世界に生きるから、力が生きないのです。

まずは身近な家庭を、教えを基に心が通い合うものとしましょう。社会の最小単位が家庭であり、それは人生を支える基本です。和のある家庭があつて、運命は磨かれ、引き出されるからです。

家族で教えを学び、身に付けるほど、一人一人の心が安定します。感情が安定すれば、道を欠くような心の動きもありません。

その人その人の物の捉え方、感じ方、考え方、まさに生き方は、家庭において身に付きます。それが、物事の成否のみならず、人生の先々の明暗を分けていきます。だからこそ、家族で教えを身に付けることが不可欠なのです。

現代は、邪道に生きる人が多いと、神は指摘されています。邪道とは、正しくない道、与えられた運命から外れた生き方です。ですから、持って生まれた運命の力を生かせず、人生を迷うのです。時代は、調和を図るため、人の力を超えた時代の運命の力で、もろもろが修正されていきます。水が濁っても、時がたてば、次第に澄んでいくのと同じです。しかし、それでも繰り返し汚してしまふのが、人間の欲心の強さです。

この世を正道へ戻すため、神は社会を大きく変えようとされています。その中で、理にかなう考え方をする人が、自然と周りの世界を導いていくはず。教えは、人の心を豊かにします。教えが身に付けば、人を責めたり、争ったりせず、自身の力で人の役に立とうと、奉仕に生きられます。潤いのある心が一人一人を重ね、平和が成っていくのです。